



# 沖縄県 ふるさと農村 活性化基金事業

## 活用事例集



- Case1 ▶ 伊計自治会 / 豊年祭と耕作放棄地活用や地域産農作物による地域活性化 …… P2・3
- Case2 ▶ 米須自治会 / 米須地域の美化活動と伝統文化の継承 …… P4・5
- Case3 ▶ NPO 法人久米島ホテルの会 / 「ハッピー・エコ・リュクス」活動 …… P6・7
- Case4 ▶ 幸喜区 / 幸喜土地改良区環境保全活動 …… P8
- Case5 ▶ 湧川区 / 地域の美化活動と世代間の交流 …… P9
- Case6 ▶ 美ぎ島宮古グリーンネット / 花と緑に包まれた美ぎ島宮古づくり …… P10
- Case7 ▶ 伊原間公民館 / 伊原間集落の伝統行事を通じた繋がりづくり …… P11

# Case 1

## ▶伊計自治会

### 豊年祭と耕作放棄地活用や地域産農作物による 地域活性化



#### DATA

- 人数  
10名以上
- 活動歴  
9年以上
- 基金活用歴  
5年(平成31年～令和5年)
- 場所  
うるま市与那城伊計



#### ◆基金活用前の状況

■ 7年ほど前に、区内にある200坪の土地が農業委員会から不耕作地の通知を受けたのをきっかけに、所有者と相談の上でその土地を自治会で管理することにしました。そこで何か特産品になるものを作りたいと思い、過去に栽培されていた麦を作ることにしました。

■ また小中学校の閉鎖、統合等がある中で、何か地域活性化につながるものはないかと考え、他村の事例を参考にフラワーロードを作ることにし、ヒマワリの栽培も開始しました。

#### ▶基金活用のきっかけ

■ 1年目は豊年祭実施のために基金を活用しました。2年目以降は麦の生産やヒマワリ栽培のために活用しました。計画性をもって活用することを意識していました。

#### ◆基金を活用した取り組み

##### ▶活動の概要

- 基金を活用して、
  - ◆ 麦の収穫・加工（麦刈体験、脱穀作業、製粉受け取りなど）
  - ◆ 麦の栽培（播種、肥料蒔き、機械麦踏、麦踏体験など）
  - ◆ ヒマワリの栽培（播種など）…に取り組みました。

■ 収穫した麦は、県外の高校生が授業の一環として麦茶やぜんざいを作り、老人会に振る舞う等、地域の交流の場で活用したり、地域のみなさんのアイデアによる麦を使った地域の特産品づくり等に活用しました。



## Q&A

**Q** 活動でどんなことに苦労していますか？

**A** 麦は1回の収穫に対して、畑を5～6回耕す必要があるため、その費用を何とか抑えられないかと考えています。

**Q** 活動を通して地域にどんな貢献をしたいと思いますか？

**A** 伊計の良いところを皆に再認識してもらいたいです。何もないわけではなく、ハーリー等の伝統文化もあります。そういったものも含めて伊計の良いところをこれからも守っていきたいです。

**Q** 基金を活用した感想を教えてください。

**A** 本基金を5年間活用できたおかげで、今後麦作りやフラワーロードの管理といった体制や仕組みを整えることができました。自分たちで自走するための仕組み作りが重要であり、基金を活用できて助かりました。



### ▶ 成果

- 令和2年から本事業を活用して麦の第四の基幹作物化・特産品化に取り組んできました。当初島内の麦生産面積は約660㎡でしたが、現在では約22,440㎡まで増えました。その作業過程で、麦踏体験や収穫体験等を行い、地域住民や移住者との交流の場を作ることができました。また、活動で生産した麦をもとに、サターアンダギー、焙煎麦茶、小麦コーヒー、お菓子・スイーツなどの特産品が生まれ、今後島内で麦を継続的に生産する可能性を見いだせました。
- フラワーロードの管理体制も整い、島への誘客につながっています。

### ◆ 基金活用後

- 基金を活用した5年間の実績をもって、自治会の予算で活動を継続することが決定しました。麦の生産が地域に定着してきて、「島麦かなさん」や「小麦珈琲」といった商品の開発にもつながりました。
- 公民館の2階に商品開発用の機械を活用し、特産品やオリジナル商品の開発を行っています。補助金や助成金頼りでは限界があるので、地元で栽培したものを地元で商品化し、付加価値をつけることで地域により多くのお金が回るようにしたいです。特産品を並べ、観光客向けの商品を分けてレイアウトする等の工夫により、共同売店の活性化にもつなげています。
- 今後は、観光客の誘致に力を入れ、更なる特産品の開発や観光ガイドの育成、観光マップの作成等に取り組んでいきたいです。観光客が回るためのルートを整備し、共同売店で買い物をしていただく流れを考えています。ネット販売等にも取り組んで特産品の販売を強化していきたいです。

## Case 2

### ▶米須自治会

## 米須地域の美化活動と伝統文化の継承



### DATA

- 人数  
51名以上
- 活動歴  
11年以上
- 基金活用歴  
5年（平成30年～令和4年）
- 場所  
糸満市米須



### ◆基金活用前の状況

■基金を活用する数年前に、市役所主導で、米須の「あるもの探し」として地域の良いところを皆で確認し合いました。その後、その時に見つけた地域の良いところを地域資源として活用し、「米須まるごと博物館」と称した地域活性化に取り組み始めました。

#### ▶基金活用のきっかけ

■「米須まるごと博物館」構想の活性化につなげ、より地元への愛着や誇り、絆の強化につなげるため、市役所に申請書類の準備等でサポートをもらいながら、活用を始めました。

### ◆基金を活用した取り組み

#### ▶活動の概要

- 基金を活用して、
  - ◆米須エイサー（旧盆）
  - ◆土地改良区沿道路の清掃
  - ◆地域案内看板の設置
  - ◆美化活動（春・夏・秋・冬）…に取り組みました。



## Q&A

### Q 活動でどんなことに苦労していますか？

A 地域の組織体制がしっかりしているため、現時点では、活動への参加者や協力体制の面で困っていることはありません。また、現在実施している活動を続けていく分には、自治会の予算（会費）である程度賄えています。まだまだ地域のためにやりたいことは他にもたくさんあり、活用できる補助金等は積極的に活用していきたいと考えています。

### Q 活動を通して地域にどんな貢献をしたいですか？

A 各活動を皆で運営、参加することで連携を強め、地域への愛を育んでいきたいと考えています。

### Q 基金を活用した感想を教えてください。

A 地域案内の看板を作成したことで、地域の人々が自分たちの地域を知るきっかけを作ることができました。それが地域の人々の地元への誇りにつながっていると感じます。行事の際は区外の参加者や観光客にも米須のことを知ってもらえるので非常に良いと思っています。



### ▶ 成果

- 美化活動や土地改良区沿道路の清掃等の環境整備を地域ぐるみで行うことで、自治会会員の集団意識、集団規範が高まりました。また、米須エイサーや地域案内看板の設置によって、地域住民や地域を訪れる方々の農業・農村に対する理解を高め、豊かな社会性を育む効果もありました。
- 地域の潜在的価値（もの）を活かした活性化を目指したことで、住民と来訪者（ひと）が元気になり、伝統を守りながら新しい取組みが進み（こと）、「もの」「こと」「ひと」が融合した現在進行形の米須になっています。

### ◆ 基金活用後

- 地域全体での防災訓練や、子ども青年会結成など活動・組織体制をより強化しています。自治会の中に 10 以上の小さいグループを作っていて、それぞれが独自の活動をするほか、自治会で活動や行事を行う際には、その各グループに役割を持たせています。そうすることで、参加率も高くなり、各自が地域の中で自然に活動を継続でき、活発な活動につながっています。
- これまでの活動で、地域住民には、地域の魅力をしっかり伝えることは出来ていると思います。今後は区外へ引っ越した方々や観光客にも、アプローチしていきたいと考えています。

## Case 3

### ▶ NPO 法人久米島ホテルの会

### 「ハッピー・エコ・リユクス」活動



#### DATA

- 人数  
16名
- 活動歴  
11年以上
- 基金活用歴  
1年（平成25年）
- 場所  
久米島町大田



#### ◆ 基金活用前の状況

■ 「久米島ホテルの会」は市民団体として2001年から活動しています。

基金活用当時、地域において、クメジマボタルの生息地であるカンジンダムへの赤土流入や水質悪化に対する危機意識がありました。水質保全と生態系保全の意識啓発のためのイベントを実施したかったのですが、普段は立ち入りが制限されている場所なので、特別なイベントとして開催したいと考えました。

#### ▶ 基金活用のきっかけ

■ 「ただ楽しい」イベントとするのではなく、カンジンダムの公共施設としての情報周知や安全管理も含めて、オフィシャルなイベントとして実施する必要があると考え申請しました。

#### ◆ 基金を活用した取り組み

##### ▶ 活動の概要

- 基金を活用して、
  - ◆ カンジンダムにおける釣りを通じた外来種駆除
  - ◆ カンジンダムにおける釣りを通じた意識啓発のイベント開催…に取り組みました。
- 町や県の南部農林土木事務所ともイベントの内容を相談しながら、環境活動としての厳格な管理と、イベント性（レクリエーション要素）とのバランスをとりながら実施しました。

## Q&A

**Q** 活動でどんなことに苦労していますか？

**A** 若い世代や地元出身者の確保が難しく、特に経験豊かな後継者の不足が深刻です。自主財源にも限りがあり、補助金等を積極的に活用したいのですが、申請・報告作業等のマンパワーが不足しているため、十分に活用できていない状況です。また、活動の魅力や意義をより多くの地域住民や外部の方に伝えるしくみを作る必要があると考えています。

**Q** 活動を通して地域にどんな貢献をしたいですか？

**A** 久米島の希少なホタルやその他の生物、多様な自然環境を次世代へ継承するため、自然の持続可能な利用・再生を目指しています。子どもたちや保護者を巻き込んだ環境学習、インターンシップ、ホタルレンジャー活動を通して、地域全体の環境意識を向上させていきたいです。島に残る自然の魅力を守りながら、地域経済やコミュニティの活性化を両立させるお手伝いがしたいと考えています。

**Q** 基金を活用した感想を教えてください。

**A** 基金を活用したことで、釣竿やライフジャケット等のイベントに必要な消耗品をしっかりと確保でき、安全にイベントを実施できました。オフィシャルなイベントとして実施することにより、地域住民や子どもたちの地域に対する誇りにつながりましたし、地域における環境学習の促進に寄与したと考えています。

### ▶ 成果

■ 90名を超える参加があり、イベントを通じてダム湖の浄化や外来種駆除を事故なく実施できたことが大きな成果です。

■ 県・関係者の挨拶や参加があったことで、地域住民や子どもたちにも、オフィシャルなイベントとしてしっかりと認識してもらえました。



### ◆ 基金活用後

■ 現在でも、形を変えて活動を継続しています。小中学生を中心にホタル保護に取り組む「久米島ホタルレンジャー」の活動や、中高生を対象としたインターンシップ（上江洲ダムでの釣り体験）等を実施しています。地域住民や保護者も巻き込んで環境保全に取り組んでいます。



# Case 4

## ▶ 幸喜区

### 幸喜土地改良区環境保全活動



#### DATA

- 人数  
51名以上
- 活動歴  
11年以上
- 基金活用歴  
3年(平成26年～平成28年)
- 場所  
名護市幸喜区



#### ◆ 基金活用前の状況

■ 青年会を中心に朝の早起き会(側溝の清掃活動等)を行っていました。

#### ▶ 基金活用のきっかけ

■ 本基金が土地改良区内の清掃活動等に活用できると知り、市役所の職員からの呼びかけもあって、農業環境の向上及び美化活動の啓発のため、申請しました。

#### ◆ 基金を活用した取り組み

##### ▶ 活動の概要

- 基金を活用して、
  - ◆ 土地改良区内の農道草刈り
  - ◆ 土地改良区内の清掃
  - ◆ 土地改良区内の雑木伐採作業
  - ◆ 児童・生徒との田植え・稲刈り作業…に取り組みました。

##### ▶ 成果

- 区内の農道草刈り・清掃・雑木伐採作業を地域ぐるみで実施する事で地域環境保全の重要性を再確認できました。協同作業により地域の結束が深まって、地域の活性化にも繋がりました。
- 地域の伝統行事と結びつけた「しるまし田」で地域の子供達と田植え・稲刈りをすることで食育と共に地域の愛着心を育むことができました。

#### ◆ 基金活用後

■ 豊年祭等の行事のほか、雑木の伐採や側溝の清掃等の活動を続けています。

■ 高齢化や進学に伴う若者の減少で、活動の継続が段々難しくなっていますが、役員中心に呼びかけ活動や、文書を配って周知しています。その結果として、今は区外に引越した人々も行事へ参加してくれています。

## Q&A

### Q 活動でどんなことに苦労していますか？

A 世代交代に苦労しています。今の参加者は40～50代がメインですが、行事によっては若い世代へバトンタッチしたいと考えています。

### Q 活動を通して地域にどんな貢献を したいですか？

A 草刈りや雑木除去の清掃活動を通して、安全で住みやすい地域にすることで、これからも人々に区内に残ってほしいと思っています。そのうえで豊年祭等の地域行事を繋いでいきたいです。

### Q 基金を活用した感想を教えてください。

A 基金を活用したことで、その分別の用途に予算が使えるようになり活動の幅が広がりました。また草刈り清掃、雑木除去の際のトラクターやその他備品も本基金を活用することで十分な数をリースできたのがありがたかったです。

# Case 5

## ▶ 湧川区

### 地域の美化活動と世代間の交流



#### DATA

- 人数  
51名以上
- 活動歴  
11年以上
- 基金活用歴  
3年(平成26年～平成28年)
- 場所  
今帰仁村湧川



#### ◆ 基金活用前の状況

■ 婦人会を中心に、農業の発展と地域の活性化のため、清掃活動や地域間の交流を積極的に行っていました。

#### ▶ 基金活用のきっかけ

■ 地域の魅力を発信するため、本基金の活用を開始しました。

#### ◆ 基金を活用した取り組み

##### ▶ 活動の概要

- 基金を活用して、
  - ◆ 農道の草刈り、沈砂池の泥上げ
  - ◆ 老人会と子ども会によるジャガイモ植付体験
  - ◆ パイン生産部会勉強会及び先進地視察…に取り組みました。

##### ▶ 成果

- 区内のパイン生産部会会員による勉強会や先進地視察を実施し、新たな知識の習得につながりました。
- 老人会と子ども会によるジャガイモの植付体験により、世代間の交流が深まりました。
- 沈砂池等の清掃により、大雨による被害の減少や、赤土汚染防止など自然保護につながりました。

#### ◆ 基金活用後

■ 現在は老人会の活動を公民館がサポートする形で、清掃・美化活動を実施しています。月に一度交流会を行い、メンバーのコミュニケーションを図っています。

## Q&A

Q 活動でどんなことに苦労していますか？

A 高齢化と若い世代の流出で、活動の継続が難しくなっています。

Q 活動を通して地域にどんな貢献をしたいですか？

A 老人会や子供会が活発に活動できることが地域の活性化に繋がると思うので、公民館としても、そうなるようにサポートしていきたいと思っています。

Q 基金を活用した感想を教えてください。

A ジャガイモの植付体験は、地域の子どもたちが楽しそうに参加していて、雰囲気も良かったです。基金を活用したことで世代間の交流に繋がりました。

# Case 6

## ▶ 美ぎ島宮古グリーンネット

### 花と緑に包まれた美ぎ島宮古づくり



#### DATA

- 人数  
7名
- 活動歴  
11年以上
- 基金活用歴  
5年(平成31年~令和5年)
- 場所  
宮古島市一円



#### ◆ 基金活用前の状況

■ 「美ぎ島宮古グリーンネット」は、平成15年の台風14号により甚大な被害を受けたことをきっかけに、植林・育林をとおり災害に強い島づくりを推進するとともに、花と緑に包まれた美ぎ島づくりを進める団体として活動を開始しました。

#### ▶ 基金活用のきっかけ

■ 「沖縄、ふるさと百選」として認定されたことから、本基金の案内をいただきました。当時、会員の会費だけでは運営が厳しくなってきたこともあって、活用を開始しました。

#### ◆ 基金を活用した取り組み

##### ▶ 活動の概要

- 基金を活用して、
    - ◆ 植樹活動
    - ◆ 育林活動(主に下刈作業)
    - ◆ 補植活動
- …に取り組みました。

##### ▶ 成果

■ 各地区のボランティアの方々と年に4~5回活動を実施しました。毎年活動場所を変えながら、防風林・防潮林の下刈作業等(育林活動)や植樹活動(新植)を展開し、災害に強い島づくりの推進につなげました。

#### ◆ 基金活用後

■ 最近、活動が90回を超えました。100回を目指して継続していきたいと考えています。また小学校との植樹活動等の交流もコロナ禍以降途絶えているため、復活させたいです。

## Q&A

### Q 活動でどんなことに苦労していますか？

A 活動前の安全確保や準備は、団体のメンバーのみで行うため、負担が大きいです。樹木を管理するメンバーや事務局の若手育成も課題です。植樹だけでは成林にならないため、下刈作業等の木が成長できる管理が重要で、そのための体制作りが必要です。

### Q 活動を通して地域にどんな貢献をしたいですか？

A 災害に強く花と緑に包まれた島にしたいです。現在防風林や防潮林、水源涵養林といった緑はありますが、花木が少ないです。宮古島に花木を植え、花の名所を作ることが夢です。

### Q 基金を活用した感想を教えてください。

A 下刈活動前の準備に費用と手間が多かかるので、本基金を活用できて非常に助かりました。また、年に一度の実績発表会では、他の団体の活動内容を知ることができ、良い刺激になりました。

# Case 7

## ▶伊原間公民館

### 伊原間集落の伝統行事を通じた繋がりづくり



#### DATA

- 人数  
51名以上
- 活動歴  
11年以上
- 基金活用歴  
5年(平成31年~令和5年)
- 場所  
石垣市伊原間



#### ◆基金活用前の状況

■ 昔から伝統行事として豊年祭やイタシキビラ(獅子踊り)、節祭を実施しており、それに伴う地域の清掃活動も行っていました。

#### ▶基金活用のきっかけ

■ 当時たまたま伊原間に住んでいた石垣市の地域おこし協力隊員の発案で、基金を活用することになりました。

#### ◆基金を活用した取り組み

##### ▶活動の概要

- 基金を活用して、
  - ◆ 草刈り作業、伝統行事の事前準備等
  - ◆ 奉納作物栽培
 …に取り組みました。
- イタシキビラに使う獅子の毛(フクダ)作りや奉納する作物の栽培を地域の子もたちに体験してもらい、地域の農業に根差した伝統文化の継承を図りました。

##### ▶成果

- 7月は豊年祭、8月は旧盆明けのイタシキビラ(獅子舞)、12月は節祭を開催しました。周辺の草刈りや清掃活動、子どもたちの農業体験等を通じた交流を通して、地域を理解し、愛着を持ち、伊原間の伝統継承の意味を学んでもらいました。伊原間の人や地域の繋がりづくりを継続・推進できました。

#### ◆基金活用後

■ 今後も伊原間区の住民に対して、豊年祭やイタシキビラ等の各行事の意味や歴史の伝承をより強化しながら、活動を継続していこうと考えています。

## Q&A

Q 活動でどんなことに苦労していますか？

A 基金を活用するにあたり、地域の意見をとりまとめるのが難しかったです。

Q 活動を通して地域にどんな貢献をしたいですか？

A 時代とともに地域の環境も変化していますが、その中で行事の本来の意味や役割は、しっかりと受け継いでいきたいと考えています。

Q 基金を活用した感想を教えてください。

A 本基金の活用により旗頭や獅子舞を新調することができました。今後活動を継続しやすい環境を整えることが出来て、大変助かりました。

申請に必要な様式は、  
村づくり計画課のホームページから



●ふるさと農村活性化基金事業 実施地区募集ページ

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/shigoto/nogyo/1010441/1010448/1025804.html>

沖縄県農林水産部 村づくり計画課

TEL : 098-866-2263